

1	表題名(ふりがな)	白峰のかんこ踊り(しらみねのかんこおどり)		
2	資料名(ふりがな)	かんこおどり		
3	作成者(所属)	小阪大(白山市文化財保護課)		
4	内容分類	民俗		
5	内容細目	郷土・歴史		
6	実施年度	2019年7月13日・14日		
7	地域・場所	石川県白山市白峰地区		
8	検索語(キーワード)	かんこおどり		
9	内容	<p>芸能がさかんな白山市白峰で、毎年7月18日前後の土曜日の晩に、街の中央で踊られる。7月18日は、越の僧泰澄が白山を開山したとされる日であるが、白峰では泰澄が白山から下山したとされている。「かんこ」とは、「神迎」とか踊り手が脇にかかえる鼓(つづみ)を「かっこ」と呼んでいるからという説があるが定かではない。おどりは、男女、3人ずつが交互に円を描くように踊る。男性は、白装束に浅葱袴(あさぎばかま)にたすきをかけ右手に鼓を持ち、歌に合わせてバチで鼓をたたく。女性は、巫女装束で金色の扇子を開き、頭上に上げたりして舞う。歌詞は、8題ある。白山の「河内」地方と「御前」(白山)のことを記した作品で、3題目には、「河内の奥に煙が見えるいねや出て霞か雲か 御前の山が焼けるのか お山の焼けの煙とあらば のうのが手を引け んなんぼをおぶせ そしておんじの裏山へ」「いね」=母親・妻、「おんじ」=山のかげ、「のの」=祖父、「んなんぼ」=幼児・一番末の男児、と白山の噴火活動に伴う避難の事を記している。この踊りは、もともとは、白峰より南東約10kmに位置する河内(こうち)と呼ばれた地区に伝わった踊りである。装束は本来、男女ともに野良着であったが、大正時代に白峰地区で踊られる頃に、現在のスタイルになった。また、同じ踊りは、白山の尾根を西に跨いだ大野市打波地区にも伝わる。三重県津市白山地区や松坂市にも同様な踊りがある。昭和35年5月27日に石川県指定無形民俗文化財に指定されている。</p>		

	10	特色	白山の河内(こうち)地方の習俗を研究する」上では貴重な習俗文化財。白山の噴火」は、17世紀前葉からないので、歌詞の内容はこれ以前に作詞されたか。		
	11	提示種類			
	12	関連資料			
	13	利用分野	デジタルアーカイブ、民俗記録資料		
	14	ファクトデータ			
	15	プロセス			
	16	結果			
	17	記録媒体	JPEG、動画		
	18	権利者(連絡先)	白山市文化財保護課		
	19	協力者(連絡先)	白峰民謡協会		
	20	許諾情報			
	21	利用注意			
	22	登録日	2019年12月21日		